

沖縄の人々の暮らしを写した写真をバックに語る
もろさわようこそさん=佐久市の「志縁の苑」

佐久のもろさわさん 沖縄の写真集に文寄せる

祭祀に「女性史の原点」ある

沖縄県、宮古島の4地域の祭祀や生活をまとめた写真集「太古の系譜 沖縄宮古島の祭祀」は、2011年に死去した写真家上井幸子さんが1970年代に撮影した写真を中心に収録した。それに文を寄せたのが佐久市出身の女性史研究者もろさわようこそさん(93)だ。沖縄の神事を担う女性の「愛と祈り」に引かれ、祭祀の現場で上井さんとも交流を重ねた。女性解放運動の議論をリードしつつも葛藤を抱えていた時期に出合った沖縄の祭祀に「女性史の原点がある」と話す。

写真集などによると、4地域のうち3地域で行われる祭祀「祖神祭」はウヤガン、ウヤーンと呼ぶ豊年祈願で、地域によって異なるが旧暦6、12月にかけて行われた。高齢の女性たちが3〜5日間の山ごもりを数回繰り返す。もろさわさんは、女性たちが断食



「秘祭」だったという。もろさわさんは、日本の多くの地域で女性が祭祀から排除されていった一方、沖縄では女系の原始共同体で女性が祭祀を執り行っていたことを示す風習が少なくない、と強調する。祖神祭で見た原始共同体の生活文化を残す女性たちの姿が、平塚らいてうが「元始、女性は美に太陽であった」



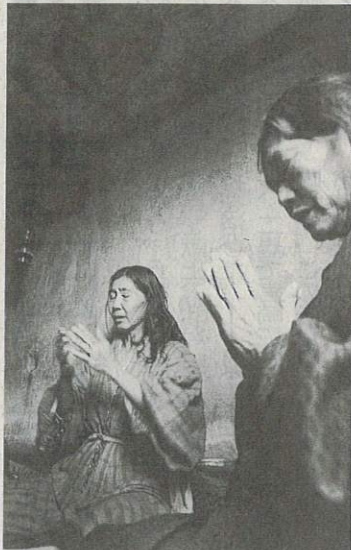
「愛」に満ちた直感の大切さ学んだ

と雑誌「青鞥」創刊に寄せた言葉に通じていると感じた。

写真集「太古の系譜」は約40年前の祖神祭で行動を共にした。1993年にはもろさわさんが設けた佐久市の交流スペース「歴史を拓くはじめの家」(現・志縁の苑)で、上井さんが撮りためた祭祀の写真展も開催。上井さんが亡くなった7年前、遺品整理をして上井さんの親族がもろさわさんにフィルムを

精神文化伝える貴重な資料

写真集は「宮古島の精神文化を伝える貴重な資料」となっている。宮古島市史編纂室によると、同市島尻、狩俣地区で行われていた祖神祭は現在途絶えている。当時の暮らしがうかがえる写真集200点が収録された写真集「祭祀が生活と密着していたことがよく分かる」(宮古島市史編纂室)とする。



写真集「太古の系譜」より。祖神祭で祈りを捧げる女性たち(1973年)

女性だけで営まれる祭祀は、山にこもった

男子禁制。もろさわさんによると、当時は離島・大神島では期間中に「よき者」は島内に入らず、島尻地区でも最後の行事を公開するだけ。写真集を担った写真家比嘉豊光さん(88)は「沖縄原諒合村」は「外来者が撮影できる状況にはなかった」とする。写真集では、山にこもった



写真集「太古の系譜 沖縄宮古島の祭祀」

託し、1冊にまとめる話が持ち上がった。

もろさわさんにとって、沖縄との出会いが大きな「救い」になったという。初めて訪れたのは本土復帰の72年。著書「おんなの歴史」「信濃のおんな」で注目を浴び、女性解放運動の主導役としてメディアへの露出が増えた時期と重なる。当時、知識や論理に基づいた言葉を書き連ねても、女性の解放像が本当に分かっていないのかと苦しさや後ろめたさを抱えていた。

対応できないと悩んでもいたがそれを肯定するように祖神祭から「愛」に満ちた直感の大切さを学んだという。「当時の女性運動には『愛』という言葉はなかった。島人の幸せを命懸けで祈り、痛みを共有する『愛』(祭祀)の女性たちから受け取りました。これが82年に開設した「歴史を拓く」つながったと思ひ返す。こうした「愛と祈り」の伝統は今も沖縄に息づいているという。「生命を育む自然を損なう動きに厳しく抵抗し、(名護市)野野古沖の)新基地建設に対しても歌や踊り、三線などの非暴力で平和の創造に取り組み女性たちに脈々と受け継がれ、未来への光になっています」。写真集に込めたメッセージだ。

録されている。本来は立ち入れないタプーな場所での撮影。自身も宮古島の祭祀行事を撮ってきただけに「上井さんがオバアたちと関係性をつくった上で撮られたことに感動した」と話す。祭祀の裏方や、子どもたちの姿を捉えた写真も価値があると強調する。

伊良部島・佐良浜地区の祭祀行事も収録。旧正月に1年の健康や豊穣を願うために女性がずらりと並んで座る様子を正面から撮影した写真が印象的だ。「自分も現場に行っているが、正面からは撮れなかった」と、比嘉さんが驚くカットを盛り込んでいる。A4判、256頁。六花出版。2700円。